

ヒラリースクール・クムジュン校開設50周年式典への出席報告

NPO 法人松本ヒマラヤ友好会（MHC）鈴木雅則理事長一行 3 人は、5 月 24 日より 6 月 2 日にかけて、ネパールを訪問。この度は、エベレスト山麓、標高 3790m に在るヒラリースクール・クムジュン校開設 50 周年記念式典への招待を受け、世界最高峰エベレストを望みながら、エベレスト街道を登り、5 月 26 日から 29 日まで開催する現地式典に出席して参りました。



エベレスト 8848m (左) を望むクムジュン村 構内に建つヒラリー像 式典出席のジュン・ヒラリー会長 (前列右 2 人目)

NPO 法人松本ヒマラヤ友好会（MHC）は、1996 年以来、その卒業生が、首都カトマンズにおいて、短期大学へ通学する勤勉学生に対して、奨学金を支給する MHC 奨学基金を設立し、毎年支援を行って参りました。そして 2011 年の現在まで MHC 奨学生は、現役学生を含め 58 名を数えています。この事は、クムジュン校通学区内（ナムチェバザール、ターメ、クンデ、ポルチェ、パンボチェ各村）から、58 名の大学へ通う MHC 奨学生を輩出した事になります。

また、2002 年には、日本政府の援助を受け、現地クムジュン校内に、遠隔地学生の為の 20 人収容（内教師 2 名）の学生寮、食堂、台所、そして 600m の水道引き込みの建設事業等を行い、現在も毎年その運営費の一部を支援し続けています。



MHC 学生寮と食堂・台所・シャワー室 入寮している学生達 MHC 学生寮 (左) とヒラリー像

式典は 5 月 26 日～29 日までの 4 日間行われ、現役学生による歓迎と祝いの踊りが披露され、又マラソンやバレーボール等のスポーツ大会も催されました。卒業生、父兄らも村々からも集まり、学校運営委員や青年会、及び関係者らのテントも張られ、一日約千人の観覧者の為に飲み物、軽食も用意されました。



構内の特設 50 周年式典会場



村々から集まった父兄等の観覧者



現役学生らによる踊り

NPO 法人松本ヒマラヤ友好会、鈴木雅則理事長一行 3 人は、5 月 25 日カトマンズから空路でルクラへ到着。準備を整え、ゾッキョ 2 頭に荷を担い登山を開始し、5 月 27 日昼頃クムジュン村に到着。早速、クムジュン校を訪問し、マヘンドラ・カセット校長、ペンバ・ツェリン・シェルパ実行委員長ら、学校関係者に挨拶をして、午後からの式典に出席致しました。



ヤクが荷を担う、クムジュン村



鈴木理事長と M・カセット校長



クムジュン校全景

5 月 29 日の最終日の式典では、ゲストとして、開設者故エドモンド・ヒラリー夫人で、ヒマラヤントラスト（ヒラリー財団）のジュン・ヒラリー会長及びイギリス、アメリカ、カナダ等のヒマラヤントラストの代表らと共に、NPO 法人松本ヒマラヤ友好会鈴木雅則理事長も紹介され、来賓者の文部大臣代理マハシュラム・シャルマ氏より、式典壇上にて、ゲスト招待者に敬意を表するカタが掛けられ、金色に輝く盾の感謝状が授与されました。



29 日式典開始、5 色の旗を掲揚



歓迎の踊り ジュン・ヒラリー会長（中央）と M・シャルマ大臣代理



M・シャルマ文部大臣代理から MHC 鈴木理事長に感謝状が授与される。



鈴木理事長、M・カセット校長（右 2 人目）



授与された感謝状

式典は、最終日 29 日深夜まで、歌や踊りが披露され、学校関係者や村人全員でお祝いをして、盛り上がり、4 日間のクムジュン校 50 周年記念式典は、大成功のうちに幕を閉じました。この式典成功により、開設者故エドモンド・ヒラリー氏の熱い願いが見事叶った事が証明され、そして、シェルパの村人にとっても、ヒラリースクール・クムジュン校がこれからの教育と文化の発展の中心地であると一層認識を新たにしたいと思います。

平成 23 年 6 月 10 日

各 位

特定非営利活動（NPO）法人 松本ヒマラヤ友好会
理事長 鈴木 雅 則